

# Azalea

アゼリア

特集

「言う」から始まる



特集

「言う」から始まる

# それぞれの心の中の男女平等

## 区民まつりでの本音インタビュー

「心の準備なし、待ったなし」の  
問いかけに本音もゆらいで、結果は...?

「北区女性白書」(96年3月発行予定)に先  
だち、女性政策課では95年5月に「男女共同  
参画に関する区民意識調査」を実施しました。  
この調査は、無作為に抽出した男女区民2、  
000人にアンケートを送り、36項目の質問  
に答えていただいたもので、回答率は43・6  
%でした。  
そのうち、3項目の回答結果をグラフ化し、  
それを見ていただきながら区民まつり(95年  
10月14日土曜日)でにぎわう中央公園で、イ  
ンタビューを行いました。

### インタビューにご協力いただいたみなさん

T・Fさん(女性)	(西ヶ原)	70代
高木 栄子さん	(中十条)	70代
K・Eさん(男性)	(西ヶ原)	60代
K・Uさん(女性)	(王子)	60代
I・Mさん(妻)	(王子本町)	60代
S・Mさん(夫)	(王子本町)	60代
石川 和子さん	(王子本町)	50代
Y・Nさん(男性)	(神谷)	40代
佐藤 比呂美さん	(中十条)	40代
小汐 輝充さん	(滝野川)	30代
S・Aさん(妻)	(十条)	30代
S・Mさん(夫)	(十条)	30代
井上 裕司さん(夫)	(上十条)	30代
井上 美千代さん(妻)	(上十条)	20代
石川 友子さん	(王子本町)	20代
石川 法子さん	(王子本町)	20代
Y・Mさん(男性)	(西ヶ原)	20代

—何となく違う—とか

—何となく不満—という感覚から、

もうひとつ 主体的に 考えませんか

自分のために。

自分の中の意識の声を

発信してみましょう。

「何となく」ではなく、

しっかり自分でつかんでみたら、

現在から 変わるはずです。

特集 「言う」から始まる

それぞれの心の中の男女平等

区民まつりでの本音インタビュー

座談会・区民インタビューを終えて

女性のエンパワメントに期待します

十文字学園女子大学助教授 亀田温子

聞き書き自分史

仕事に生きる助産婦として

'95アゼリアプラネットまつり

アゼリアさんV.O. 3

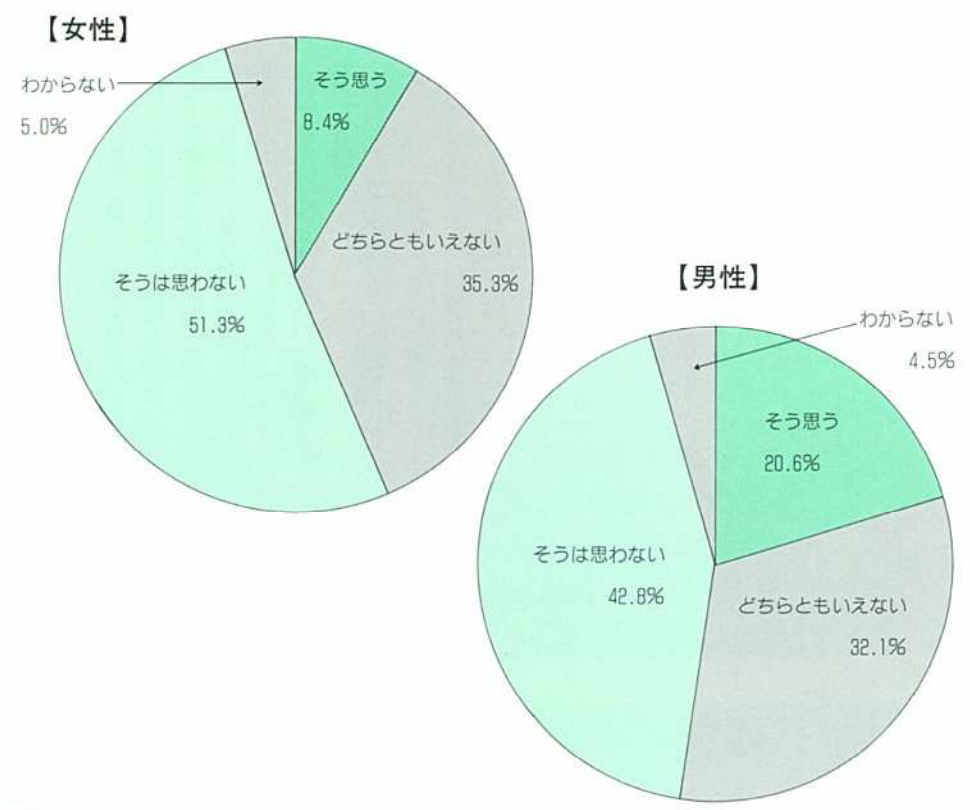
第2回北区女性海外派遣事業

インフォメーション

# 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはどのように思いますか？

性別役割分担の意識は、あまりにも日本の日常に浸透しています。しかも、愛情や好意に基づいているので、とかく自然なことと見なされ差別と感じにくいのです。しかし、このことこそが、男女平等を妨げている根っこの部分と考えられます。そこで、この質問をしてみました。

★「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはどのように思いますか？



一般に女性は、性別役割分担を否定する割合が男性より多く、男性は役割分担を受け入れがちです。しかし、男性・女性ともに、役割分担否定派が前回調査（90年、男性35.6%、女性39.2%）に比べ増加しています。北区民の意識も、変化しているようです。

**井上裕司** 「家庭とか仕事って個人個人の家庭の問題であつたり、個人の問題であるわけだから、（良い悪い）どちらともいえない。個人的にはそれは、今は、いろんなものが勝手になってるんですけども、制度一般のことについては、どちらとも言うべきものではないな」

**I・M** 「あの、私たちの年代というのはね、女は家庭にいて……そういう風に育ってきちゃってるからね。女が自立するっていうのも、根本的にあの、そういう育ち方をしていないから、やっぱりダンナさんに頼っちゃうのよね。だから、男女平等って言いながらもね、そういう面ではやっぱり、男と女の差はあると思いますよ」

**佐藤比呂美** 「結婚して家庭にいて子供が生まれて、大きくなって再就職をしようと思っても、就職先の方がいいですね（行政への希望として）そういう（再就職の）場を拓けてほしいですね。家の中でただ老いていくのはいやだな。就職するという形でも、ボランティアに参加するとか、いろいろ考えているところですよ」

**S・A** 「結果的には、今我が家は、男は仕事女は家事になってしまってますけど、私は本来そう思っていないですね」

**S・M** 「基本的にはそう思っていないんですが、子供がいるいないで変わってくるんじゃないですか？ 今は家事をあまり手伝ってはいませんが」

**小汐輝充** 「私は個々の役割があると思うけれども、全体的にはこの結果のような気持ち強いんですね。実際に、家の中では、役割分担があり、掃除なり食事なり、やっていきますよ。やってはいませんが、根本は男は仕事、女は家庭という考え方でですね」

**Y・N** 「今の社会状況の中では、どちらかというと、そう思う、という意見が多くなるでしょうね。家庭生活にしろ、仕事にしろ、お互いがカバーしあう問題ですからね。こ

男性も、これからは家の中のことがやれるようになった方がいいね」

**K・E** 「私は自営で、一日中家の中にいるんです。家族は大変だと思えますけど、家内にはやはり家についてほしいですね。料理がうまくいって、女性はやっぱり家について、食事のしつくりをしたり、きれいにしているほしいと思います。仕事は男に任せてね。男は一度外に出たら、七人の敵がいるって言うでしょう。あれは本当だよ。女性が外へ出ていってごらん。同じように敵を作って仕事していくことになるんだよ。俺はいいやだね。家に置いておきたいよ」

**T・F** 「夫は傷い軍人でね、それで自営業をやっていますから、夫と同じだけ私も働きましたね。役割分担なんてありませんでしたよ。手の空いている方があったもの。夫が亡くなってからはいろいろ大変だけれど昔は、女の人は家にいるのが当たり前だったけれど、これからは違うよね。女性だつてどんん社会へ出ていって働くようになってきているじゃないの。息子の所は、息子が外で働いて、お嫁さんは家にいますけれどね」

## 特集

### 「言う」から始まる



高木栄子さん

の結果については、年齢差にもよるものではないですか。男性の比率にもよるし。私自身は、そう思わない、という立場ですよ。我が家なんかは妻もいっしょの職場で働いていますし、妻がいなかったら困るんですよ」

**石川(母)** 「やっぱり皆さんそういう考え（役割分担した方が良くという）が多いんじゃないですか。男は仕事、女は家事、の方が双方楽ですよ。その方が物事がうまくいきますからね。男の人は家事はお手伝いぐらいいが適当だと思えますよ」

**石川(娘)** 「うーん。でも男の人もしょくらくは手伝ってくれなくてはねえ」

**高木栄子** 「私は今、ボランティアで国際交流の方のお手伝いをしてるんです。今年の夏、北とびあで催された国際音楽祭の時も私は通訳として参加しました。夫が入退院を繰り返しているの、病院で付添いをしたり、家で介護をしたりの毎日です。これまで、男は仕事、女は家事・育児とされてきたのは、その方が男性にとっては都合がいいからでしょう。私の夫は、とても頑固な人ですから、言われたことやすべきことは全部済ませたうえで、こうして出掛けてきているんですよ。とても忙しいです。でも自分がいっしょに倒れてしまつてはそれこそ大変だから、そうならないように、こうして外へ出て、自分にできることとして人様のお役に立つことをするように心掛けています」



Y・Nさん

**Y・M** 「今、世の中は少子化と高齢化が目に見えているから、労働力として女性が働くようになることは必要だし、きっとそうなるって思う。そうでないと、高齢人口を支えきれないと思えますよ。自分が家庭を持ったら、という前提の上では、女性がどれだけのしっかりした意識を持って、働きたい、と思うかが問題だと思います。例えば、自分を向上させたいとか、自分の仕事に生き甲斐を感じているとか、使命感を持っているとか、そういう考えを持った上で、結婚してから仕事も続けたいと考えているならば、僕は家事も手伝い、育児も分担して協力していくと思う。単に家計を助けるとか、自分のものを買いたいとかなら、家にいる、と言いますね。僕ひとりの仕事でやっていけると思っています。ただ、根本的な向き不向きは問題外ですよ」

**K・U** 「うちの嫁さんは、ちゃんと働かし、子供を保育園に送って、その足で職場へ行くんだから大変だと思えるよ。これからは、男も女も皆、働くようになるんじゃないの？ 出産や育児の時は、相当大変だけれど、世の中が少しずつそうになっていくと思いますね」

私も爺さんといっしょに、若夫婦が出掛けた後、掃除や洗濯や、孫の世話なんかをいろいろやって、あと押ししていますよ。



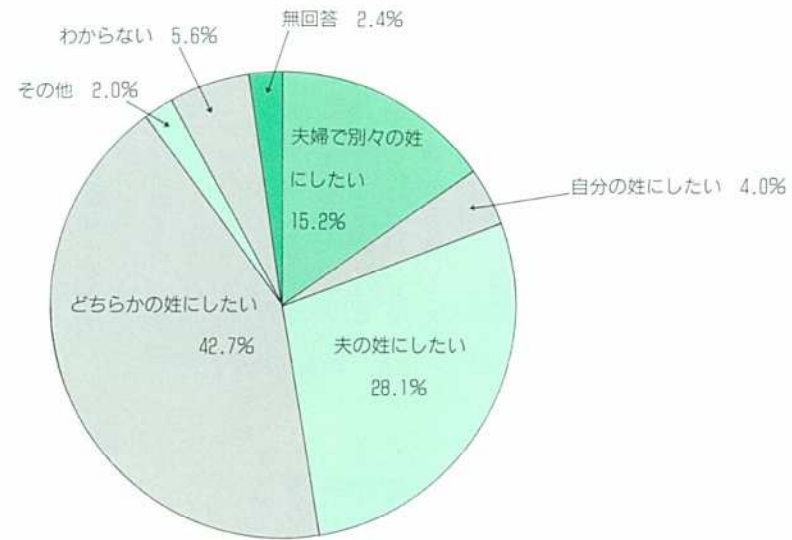
小汐輝充さん

# 夫婦別姓が法制化されたら、 あなたはどのようになりたいと思いますか？

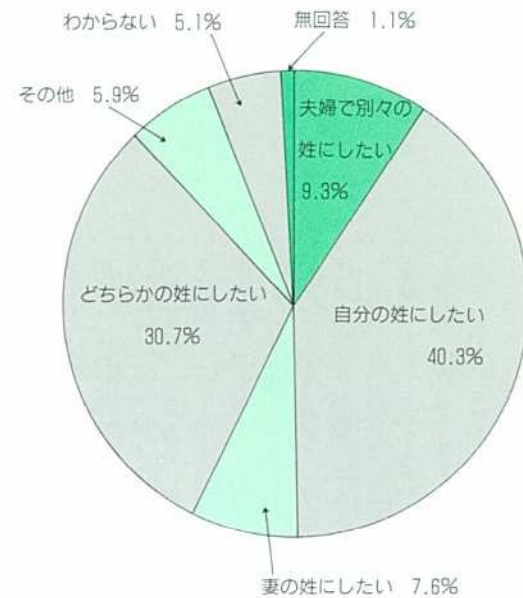
現在あなたが未婚で、これから結婚すると仮定してお答えください。  
夫婦別姓については、現在法制化に向けて着々と準備が進められています。近く、確実に法律で別姓が認められるようになりそうです。いざその時、あなたはどのようなか、どのように今から覚悟をきめますか？ということを知りたかったのです。

## ★夫婦別姓が法制化されたら、あなたはどのようにしたいと思いますか？

【女性】



【男性】



妻の姓にしろ、夫の姓にしろ、どちらかに統一したいというのが多数意見です。夫婦で別の姓にすることに賛成なのは、やはり男性に比べ女性が多くなっています。

## 特集

### 「言う」から始まる



石川友子さん

**井上裕司**「そうだな、仕事の（上での問題で）あるという）面が強いと思うんですけど。そうしたら職場で旧姓を使うようにすれば……なにも法制化しなくても」  
**井上美千代**「結婚して姓が変わったのは良かったですが、という間に）どっちもどっち子供ができるまでは働いていました。ちょっと仕事がハードというのがあるって、ちょっとやめたいと思っていたから……」  
**I・M**「私はやだな、そういうの。うちなんか、ひとり息子なのね。息子にもし、お嫁さんの方の姓を継ぐって言われちゃったから私、許さない。やっぱりこたわりません」  
**S・M**「（別姓にするくらいなら）結婚しない方がいいと思うよ。連帯感がなくなるしさあ」  
**佐藤比呂美**「別姓でもいいかな？（旧姓に）慣れ親しんできたんなら、それでいいかしら、みたいな」  
**S・A**「抵抗あります。（子供が結婚する際に）女性の姓にすると言われたら、抵抗あるかもしれない。ちょっと古いのかなあ」  
**S・M**「女性の姓であっても、ふたりが統一するのであれば構わない。（子供が結婚する際に）どちらでもいいんじゃないのかな」  
**小汐輝充**「構わないと思います。これから行政で煮つめていく問題だと思いますが、法律的にはつきりしたら、別姓でもいいと思います」



石川和子さん

**Y・N**「姓を別にしたいと思っている女性はいるでしょうね。まあ現状ではこのぐらいの割合でしょうね。私は夫婦同姓がいいと思っていますよ。妻は別々の意見みたいだけれど（笑）。結婚前にそう言われたら、どうするかあ（笑）。日本は家父長制だから、今自分の姓を変える気はありません」  
**石川（母）**「私たちがいる世代は、結婚の時に女が姓を変えるのは当然だと思ってましたからね。旧姓にこだわり続けるのはちょっとよくわからないです。ただ、これからの人は仕事を持って活躍している人なら姓を変えたくはないでしょうね。そういう立場の人なら旧姓を通していいと思いますよ。（そういう立場にない人は）旧姓にこだわらなければならないじゃないですかねえ」  
**石川（娘）**「名前にはこだわらねえ。結婚したら夫の姓になりたいです。愛情があれば姓にこだわらなくてもいいのでは……」  
**高木栄子**「私共、もう年ですからね。お墓とか、財産とか、難しい問題が出てくると思いますから、姓はやっばり同じにしておく方がいいと思いますね」  
**Y・M**「やっばり男の姓を選びますね。女性の方に、選択肢が多くなったということは

これまでより進歩したと思う。ただ、（法制化）と書かれると、すぐそうしなくちゃいけないとか、すぐ、そうなるとか感悪いし、そうだけど、女性にとって同姓にしていることのデメリットが、自分にはもうひとつよく理解できませんね」  
**K・U**「私らの世代は、結婚した時、自然に夫の姓になったものだけれど、今の若い人たちは進んでいるし、理屈もすっかり言うから、姓が違っていても、うまくやっていけるんじゃないの？」  
**K・E**「別姓なんてとんでもないよ。子供はどうするんだい。ひとりならまだしも、ふたり三人になってごらん、どっちの姓にするかで迷って、子供がかわいそうだし、将来起こる問題の大変さを考えたら、賛成できないね。同じ姓にしてお父さんがいいに決まってるよ。一軒の家の中になんかひとつの家族で、姓がそれぞれ違うなんておかしいよ。結婚したら男の姓を名乗る。これで決まり。養子は別だよ」  
**T・F**「今は、私は娘に面倒みてもらっているのよ。昔風の娘だから、結婚したらやっばり夫と同じ姓になりたい、って言うと思いますね」

井上裕司さん  
美千代さん



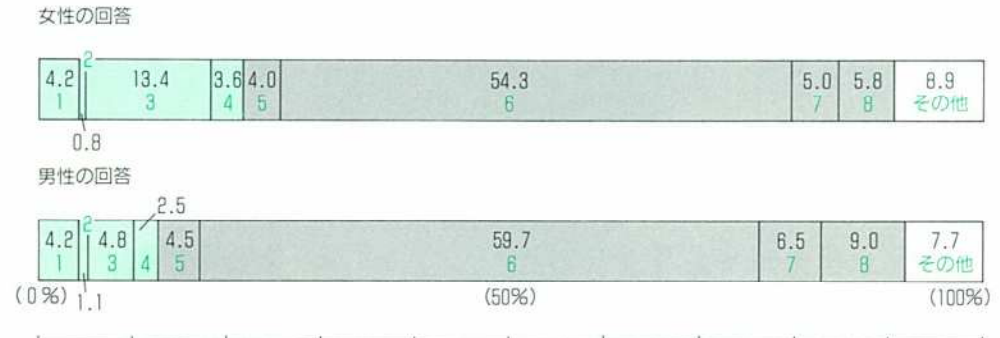
# あなたのお子さんに、 将来どのような人になって欲しいですか？

該当するお子さんがいない場合は、「一般論としてお答えください。」  
未来を担う子どもたちに対する望み・育て方などに、私たちの願いや本音が現れてくると思  
い、子どもたちにとどのような人になって欲しいか、という点をお聞きしました。

## ★あなたのお子さんに将来どのような人になって欲しいですか？

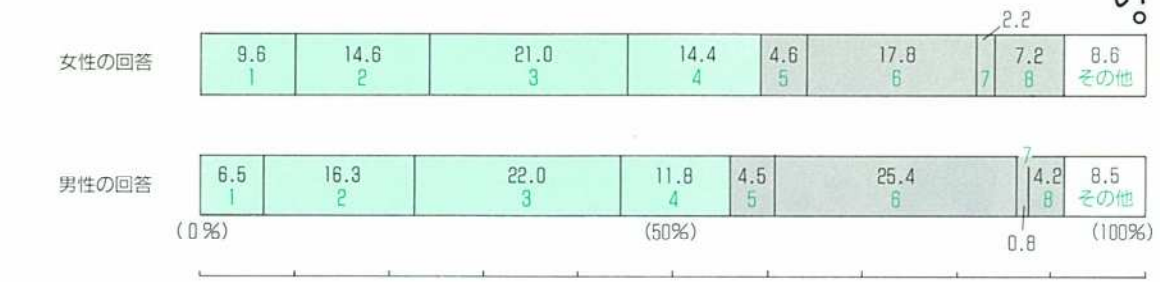
### 【女の子の場合】

- ※ **社会性** □ 1. 知識や思考力のある人 3. 独立心や自立心のある人  
2. 決断力や指導力のある人 4. 経済的に生活力のある人
- 情緒性** ■ 5. 協調性のある人 7. 情緒豊かな人  
6. 思いやりのある素直な人 8. 家族を大切にすること



### 【男の子の場合】

- ※ **社会性** □ 1. 知識や思考力のある人 3. 独立心や自立心のある人  
2. 決断力や指導力のある人 4. 経済的に生活力のある人
- 情緒性** ■ 5. 協調性のある人 7. 情緒豊かな人  
6. 思いやりのある素直な人 8. 家族を大切にすること



男性・女性ともに、女の子には協調性・思いやりといった情緒なものを  
求め、男の子には独立心・生活力といった社会的な面を求めがちです。グ  
ラフに明らかに表現されています。

## 特集

### 「言う」から始まる



石川法子さん

**S・A** 「健康であれば、今のところはそれだけ  
いいです」  
**S・M** 「常識のある人になってほしいです。  
男の子だから、男は仕事という考え方もあ  
るので、社会に出て、うまく人とつきあっ  
ていけるような人になってほしい」  
**小汐輝充** 「思いやりのある素直な人が、やっ  
ぱり一番でしょう」



佐藤 剛さん  
比呂美さん

**Y・N** 「女の子でも男の子でも、基本的に独  
立心が大切だと思っています。ただ人  
間として思いやりという点は基本的な大切  
な事ですから、その上で独立心のある人  
になってほしいと思います。男の子だから  
女の子だからとは分けて考えていません」  
**石川(母)** 「やっぱり思いやりのある人でない  
と……男の子、女の子どちらも思いやり  
が大切です」

**石川(娘)** 「人のことを思いやることのできる  
人かな。でも、男の子はやっぱり社会性や  
経済力が必要かな」  
**高木栄子** 「時々、結婚した娘が手伝いに来て  
くれますが、いっしょに連れてくる孫を見  
ながら思うんです。これからの女性には  
独立心も指導力も必要だなんて。もちろん  
思いやりがあって、素直であって、その上  
に(そういう心が)養われてほしいとい  
うことですね」

**Y・M** 「社会の方に女性の社会的な受け入れ  
がきちんとあるならば、判断力も知識も指  
導力も兼ね備えた人間に育てる必要があ  
ると思います。でも、今のままだと「超水  
河期」がいい例じゃないですか。社会の受  
け入れ方が遅れていると思いますよ」  
子育ては、まだやったことがないからわ



T・Fさん

**K・E** 「男は仕事、女は家事と、子供を育て  
ることも必要になると思うよ。結婚しない  
女性だって増えているものね。昔に比べた  
ら。でも、やっぱり基本は優しさだよ。男  
も女も。思いやりが大事だね」  
**K・U** 「世間のお父さんやお母さんたちが、  
男の子供にこれだけのぞんざいしていること  
は、それだけ男性の方が大変だということだ  
ね。経済力、指導力、独立心、どれも全部  
自分でやらなきゃ、人に先を越されてしま  
う訳でしょう。女の子を育てることだって  
これからはひとりですべていける力をつけ  
ることも必要になると思うよ。結婚しない  
女性だって増えているものね。昔に比べた  
ら。でも、やっぱり基本は優しさだよ。男  
も女も。思いやりが大事だね」  
**T・F** 「女の人には、社会性も、いろいろな  
知識も必要だけれど、何といても家庭的  
でなくちゃね。男だって優しさに越したこ  
とはないけれど、それだけじゃ困るし。い  
っしょに生活するようになってから、お互  
いにうまくやっていくには、どうしたって  
経済力と譲り合いじゃないかね」

区民インタビューを終えて



区民の方へのインタビューを終えて、私たち編集委員自身も、日頃考えていること、声にしてみたいと思い、座談会を開きました。

いま、何を変え、何が変わったら良いのでしょうか。家族という小さな単位の中で子どもたちに何を伝えていったら良いのでしょうか。

いつもの編集会議そのままに、率直な意見が活発に出ました。

生まれて初めて?のインタビュー

醍醐さん

- 出席者  
小田原 淑子  
醍醐 麗子  
田島 加代子  
館江 順子  
森下 えつ子  
司会  
稲川 桃代

司会/Aゼリア編集委員のみなさんの座談会を始めたいと思います。

今までに、こういうインタビューはされたことがありますか？

田島/初めてです。

館江/私も初めてなので非常にドキドキして終わってしまったから「もっとほかの話題もからめてお聞きすればよかったな」と、ジワジワと思いました。

醍醐/最初不安だったんですけど、みなさん快くインタビューを引き受けてくださって、そして、的はずれな回答はひとつも無かったですよ。

小田原/私は、今回のインタビューに参加できなかつたんですが、もし自分が、いきなり「インタビューをお願いします」と言われた場合、質問事項についてある程度日頃関心を持っていないと、答えにくいでしょうね。

森下/いきなりの質問に、このような回答をただで、北区のみなさんの関心の高さを感じました。

以心伝心だけでは伝わらないものもある

田島さん

司会/じゃ、まず、家庭内の役割分担、「男は仕事、女は家庭」という固定的な観念について、おうかがいしたいんですが。

森下/私ね、結婚したばかりの時に、「家事一切を全部やらなくっちゃと思って、子育てをしなから、老人介護をして」「これはもう駄目だな」と思って夫の手を借りるようになりました。それは、あくまでも借りるという気持ちだったんですけど、ところが自分も体を壊して、まったく家のことができなくなって、「どっあがいても何もできない。そういう時期を越えてやっとならないことは」「できない」と、はっきり家族に言っちゃって「おつ、おつ、自然に言えるようになってきました」。



小田原さん

田島/倒れちゃうのっていいですね(笑)。うちの場合。言えはやってくれるのはわかるけど、自分でなんでもやってしまっただけで、自分でも積極的にやってくれないの？とか、愚痴をいってる感じ。

司会/自分のレベルまでやって欲しいって、期待し過ぎるからじゃないですか？

田島/そうですね。「気持ち察して動いてください」って。

館江/夫が少しずつ、手をだしてくるようになってたけれど、やっぱり日本男子の根っこが残ってしまってるね。本来は自分がやらなくてもいいのだけれど、見るに気がねてやっっているんだよ」という面がみえる。森下さんのように、その都度、言葉に出して言っていないかなければと思います。男の人は、以心伝心の世界で育っているでしょ。

醍醐/夫もそういうふうには育っているんで、難しいですね。これから息子を教育する方がずっと楽かもしれません。その人の育ち方が大きく影響しますから。

小田原/でも、男の子はこう、女の子はこうという教育をした結果だと、それだけでも思えない。性格的なことや気質ということもあるし、すべてが環境だけのことではないと思う。

夫婦別姓は時代を変えるスイッチ

館江さん

司会/次は夫婦別姓についてです。戦後の民法改正で家督相続は無くなりましたが、まだ戸籍の部分に「家」は残っています。戦後50年にして初めて動き出した民法改正の動きですから、別姓を選ぶ選はないということも意義あることですが、「いろいろんな選択肢があるよ」ということが大切だと思います。このインタビューで声を聞かせてくださった全員が夫婦別姓について知っていて議論の対象となつたのは、ちょっと成功したかなと思います。

小田原/その選べる状況というのは最もいいはずなのに、議論にはなるけれど、多様であることをそう喜べないのは、名前だけ別でもほかの部分が一緒に育ってこないからでしょうか。

館江／インタビューのなかで、「法律的にはきりしたら、別姓でもいいと思います」という男性の答えを聞いて、夫婦別姓が法制化されたことをきっかけに変化が始まる、そんなスイッチのような存在になるのでは、と思いました。もちろん、法さえできればすべていいというわけではありませんが。たとえば、小学校で男女混合名簿を実施しようとする時、必ず先生の中に「実質的に男女平等であれば、名簿を混合にする必要はない」とおっしゃる先生がいるそうです。けれども、男子を名簿の先に持ってくる、何でも男子優先になり、無意識的に差別が始まる。法制化の意義も、同じところに根っこがあるんじゃないかと感じています。

田島／形から入るのもひとつのやりかたですよ。昔はね、家単位で成り立ってきたことが、その単位が個人になってきたことで、やっぱり曲がり角だと思えます。名前ぐらい変えたって、どっつてことないよ、みたいに思うかもしれないけど、これは重要なところだと思います。

森下／それを子どもたちに伝えていくことですね。そういう人たちが、時代を変えていくんじゃないかと思えます。

醍醐／家でこれを実現していくのはなかなか難しいと思うけれど、なんとか子どもにはね。私のお葬式とかお墓のことは、解放してあげたいな。

司会／遺言状を書いておくとか(笑)。

小田原／はつきり声に出して残して置きましょう(笑)。

## 「思いやりのある人」は、子に望む基本



森下さん

司会／次の「どのような人になって欲しいですか」に移ります。女の子に対する希望と男の子に対する希望が、はっきりと別れているところが面白いと思うんですが。いかがですか。

醍醐／いじめの報道などを見るにつけ「思いやりのある人」が大事だと思うけれど、思いやりのある人に子どもを育てるのは、どの家庭でも当たり前でできる状態でないといけませんね。

森下／男の子でも女の子でも、将来一人生きていける人間にならなければいけないから、よけいに相手に対する思いやりを持つ人に家庭、社会、環境が育てていかなくてはと思います。

田島／同じ環境でも兄弟で違うし、私は個人の気質が一番大切だと思う。その子の良さを発見してあげるのが親であり、教師であるのだから「男の子だから」「女の子だから」というのは誰にも言えない、言っちゃいけないと思います。

小田原／「思いやりのある人」のベースがあった上で、望むことというのは男の子も女の子もありません。しっかり自分でやっていける人になって欲しいと思います。



司会

館江／結婚するにしろ、仕事をやるにしろ「思いやり」というものがすごく大きな働きをもつわけですから、家庭で母親だけじゃなく父親もね、そういうことを自分で考えて子どもに伝えていく努力をしないといけないと思います。父親も背中を見せて欲しい。

司会／「思いやりのある素直な人」というのは、男女とも根本的に必要で、そして女の子も社会性や経済的自立が大事だと思うことですね。でも、インタビューの中で男性が「男らしさ」にすごくこだわっている気がしましたね。

森下／私たちの世代は、「らしくありなさい」とってさん言われてきたでしょう。

田島／私は家でせんせん言われなかった。でも学校で「おまえ女なんだろ」というようなことを言われて、結構外では縛られてたな(笑)。

司会／固定観念に縛られない自由な発想や考え方の柔軟さが大切なんですね。「意識して発言していく」というお話がありましたけど、私たちを含めて、女性たちが「これはおかしい」とか、「こうした方がもっと生きやすくなる」ということを発言し、お互いに議論しあいながら、新しい形で意識的に動いていくことを大いに期待して終わりたいと思います。

区民意識調査をもとに「アゼリア」の区民編集委員がインタビューをおこなう今回の企画は、次の点から大変有意義なものと思えます。

一つは、インタビューで直接意見を聞くことにより、アンケート調査による数字の内容がより明確に見えてくることです。「男は仕事、女は家庭」の性別役割分業意識について、東京都の調査(93年東京都生活文化局「男女平等に関する都民の意識調査」)、「そうは思わない」が女性50・6%、男性33・8%と比べても、北区民は数字的には分業否定派が多いようです。しかし、その内容をインタビューから探ると、「わが家は分業だけれども、本来はそう思っていない」「自営業で共に働いているが、妻はやはり家についてほしい」など総論一各論分離派から、今後の社会の在り方をにらんで、男性の家事参加、女性の社会参加の必要性を説くものの、子どもの世代は「男が働き妻は家」と分業のまま、身近な領域と社会の動きのズレを指摘している場合もあります。男女平等意識に潜むこうした複層構造を明確にとらえることが、次の調査の土台にもなりますし、実態を変革するのに重要な鍵となってくるでしょう。インタビューという新しい試みを意義あるものとして、ぜひ次のステップにつなげてほしいものです。



十文字学園女子大学  
助教授 亀田 温子

# 女性のエンパワーメントに期待します

もう一つは、区民参加の情報誌づくりや今回のインタビューは、参画のためのエンパワーメント(変革にむけての力をつける)につながるという点です。参画をし実態を変えていくためには、やはり充分な力が必要です。数だけで女性が参画するのでは意味はありません。「言う」から始まる。今回のテーマは、新しい事柄をつくるために提案できるということも含まれているでしょう。北区では、参画のための人材育成をおこなう「北区女性のネットワーク」も95年春からスタートしています。女性のエンパワーメントが大いに期待されます。

このように、女性のエンパワーメントといっている状況のなかで、今回の調査結果が示す人間像には、びっくりしました。これだけ社会の状況が変化しても、相変わらず女の子に望むのは情緒性が圧倒的、特に男性はそうです。こうした期待の中で女の子はどう育つのでしょうか。国際比較調査をみても、アジアの中で日本は男女の関係性について保守的な傾向が強いですが、21世紀を担う世代にまでこうした傾向をもたらそうとしている姿がうかがえます。1975年の国際女性年から約20年、まだまだ取り組む課題はたくさん残されています。



# 仕事に生きる

助産婦として

武藤とみさん  
北区豊島在住

昭和が20年代になって間もない頃、それまで「お産婆さん」と呼ばれてきた女性たちは、昭和22年、日本助産婦会の設立と共に改めてその職業の重責が認識され、「助産婦」と名を変えて、新たな出発をすることになりました。

12歳の時、母親を難産のため亡くした武藤さんは、その後、父親や周囲の人々の勧めもあって、「村のお産婆さん」という仕事を選び、以後助産婦さんとしてこの道を歩んできました。

## 家族の中で

武藤さんは、明治43年10月29日千葉県柏市で、共に教員の両親の長女として生まれました。

この年北区では十条駅が開設され、また8月には、浅草一帯まで浸水した荒川の洪水の被害が出た年でもありました。

「家はお寺で、父が住職と教員を兼ねていました。両親が仕事に出た後、お寺を空けるわけにはいかなかったため、妹と一週間ずつ午前と午後とで交替しながら学校へ通い、行かない方が寺で留守番をするという毎日でした。妹が小学校3年生、私が5年生の頃です。幼くても、家族の一員としての責任を担っていた子ども時代だったのでしょう。

## 一人立ちして

昭和6年3月、麹町の日本産婆看護婦学校を卒業した武藤さん。初めて一人で赤ちゃんを取り上げた時の心境は、

「牛込のお湯屋さん（銭湯）のご長男でした。無我夢中で、気がついていたら赤ちゃんが私の手の中にいました。産湯をつかわせているうち

に、初めて自分でやったのだなという嬉しさがこみあげてきました。23才の時のことです。

卒業後は千葉で開業し、近所や隣村の妊婦さんの家をまわっての仕事が始まりました。教員の父や母の月給が7円99円の時代、分娩料は4円だったそうです。

その後野田市内の個人病院を経て、昭和8年から荒川区にある大門小学校に養護教諭として勤めるようになり、都電の駅「熊の前」から歩いて15分程の所にある学校です。「衛生室」という札の健康管理に気を配り、春秋の遠足にも付き添って行きました。世の中は産めよ殖やせよの風潮がしきりで、児童の栄養補給のために肝油ゼリーが配られたりもしました。

この間も助産婦としての仕事は続けていて、学校に電話が入ると、病欠扱いにしてもらい都電と電車を乗り継いで千葉まで戻り、妊婦さんの家へ駆けつけたそうです。やがて、男性教員には召集がくるようになり、空襲を逃れて児童疎開が始まったため、武藤さんは11年間勤めた大門小学校を退職し、助産婦の仕事に専念することになりました。

## 家庭を持つ

武藤さんが上京したのは昭和21年、37歳の時です。戦災で家族を失った武藤儀平さんと結婚し、北区豊島に居を移しました。

戦後間もない頃でしたから、家の周囲は瓦礫ばかりで、王子駅で発車の合図に手を挙げた駅員さんの白い手袋が見え、風に飛んで呼び子の音も聞こえたそうです。

昭和23年12月、高齢のため心配

## 仕事に生きる

お産が始まると、ほとんど寝ずの一週間です。牛乳や生卵を飲んで栄養を摂り、仕事にあたります。石神井川の船着場に呼ばれ、揺れる船内でお産を手がけたこともありました。また、貧しさから、分娩料を払ってもらえないこともありました。そして平成3年、王子保健所の新生児訪問指導員を最後に、60年続けた助産婦の仕事に勇退しました。

病院で産むより、助産婦さんの手を借りての自然なお産が改めて見直されている。武藤さんは、その後結婚したきみ代さんと共に、区の「自分史を書く会」に入っています。また、きみ代さんは好きな書道が続けていて、東京都障害者総合美術展にも毎年出品しています。数々の人生の出来事に、常に立ち合ってきた武藤さんは、こう語ります。

「お産は、それこそ戦場へ出て行くようなものでした。オギャーと泣かなければお産ではありませぬからね。転んで怪我をしたこと位はありますが、こうして健康でいられることに感謝しています。」

その横できみ代さんは、一粒種の正城くんが襖に描いた家族の似顔絵に目をやりながら「私一人の母ではなかったですね。」と笑顔で話します。きみ代さんの、その屈託のなさがとても印象的でした。



昭和初期

された初産でしたが、地域の助産婦さんの手当てで無事、長女きみ代さんが生まれました。初めて自分がお産をし、我が子と対面した時は、うれしくて、泣けて仕方なかったと、目を潤ませて話しました。そして、お産を控えた女性に何より必要な安心感を与えるためには、助産婦は少しでも早く駆けつけなければと、自分の経験を通して思ったそうです。

産後も仕事を続ける武藤さんは、家を空ける機会が多く、夜間のお産に出かけて明け方帰って来ると、きみ代さんをおぶったままねんねこを育てている儀平さんを何度か目にしました。また、持ち歩く武藤さんの靴はずっしりと重く、見かねて自転車の練習に手を貸してくれたのも夫の儀平さんでした。

## 試験

昭和26年夏、3歳間近のきみ代さんが夜中に発熱し、明け方仕事から戻った武藤さんは、きみ代さんを背負って病院へ走りました。そこで告げられたのは「脊髄性小児麻痺」という診断でした。入院、通院、歩行訓練と小学校へ上がるまでの3年間は親子で文字どおり3人4脚の、病氣と闘う日々でした。あちこちの神社仏閣に必死で願かけをしてまわったりもしました。

治療と訓練の甲斐があつて、障害は残るものの、きみ代さんは明るい少女に成長し、元気に学校へ通い始めました。

この年儀平さんはそれまでの家に建て増しを計画しました。部屋数を増やすことで入院施設としての許可を得て、武藤さんが自宅で助産婦の仕事ができるようにするためだったようです。そして何よ







原作/田島加代子  
画/小酒井久子

# '95アゼリアプラネットまつり

11/11・11/12

## 大盛況だった手づくりのまつり

今年のアゼリアプラネットまつりは、ひとあじ違う！  
発足間もない「北区女性のネットワーク」が中心となって、  
多くのグループや個人に参加を呼びかけて準備を進めました。

テーマは「交流」。

企画から運営まで、  
スタッフ会に応募した区民による手づくりのまつり、  
当日の盛況をご覧ください。



フォーラム部会  
北京女性会議に北区民も参加。宣武区へ  
の女性区民派遣団員とあわせて報告。



フォーラム部会  
櫻井秀勲氏の講演会  
女性区民の才能発揮！たくみな司会、  
パネルの文字も区民スタッフの手で。



売れ行き好調、バザー部会



点字のレッスン。ボランティアとしてやっ  
てみませんか。中央の紳士は  
北区長。



講演会後の交流パーティー  
予想を上回る参加者に、会場は文字  
どおり熱気につつまれる。



国際交流部会  
和服の着付だけでなく、マナー、  
歩き方もアドバイス。外国の方に  
「こういう交流ははじめて」と  
大好評。



手芸のワンポイント講座  
覚えて帰ってトクした気分。



展示部会 パンフラワー、  
和・洋裁、編みもの  
など日頃の成果。  
作り方の説明も  
ありました。



サンドイッチとコーヒーは「第二ワーク・イン・あすか」(心身障害者作業所)  
の人々の協力によるもの。新鮮で好評でした。

はじめの経験で時にはとまどいながらも、  
まつりを区民スタッフでなんとかやり終える  
ことができ、大きな自信につながりました。  
初めの一步は、まず踏み出されました。二歩  
目はもっと遠くまで。'95アゼリアプラネット  
まつりにご期待ください。



# 実りの秋に

第二回北区女性派遣団が北京市宣武区を訪れたのは、第四回国連世界女性会議が開幕して間もない昨年十月でした。人口・経済・人権など、多くの課題を抱えながら近代化を図る国にあって、出会った女性達は皆それぞれの道を前向きに受け止め、ひたすら歩を進めている印象を受けました。とりわけ、女性の地位の真の向上を目標に掲げる婦女連合会の面々の力強い笑顔は忘れ難いものです。



五日間の滞在中、少数民族の住む四合院の庭で、また故宮の九龍壁の前で、と北京の様々な顔の一部を垣間見ました。この国に生きる人々の底知れぬエネルギーの源に触れたような気がします。実際に現地に立ち、風を肌を感じることで、書物や映像の中にあつた数々の場面が息づき始め、胸に迫りました。今回団員の一人が身内のご不幸で直前に参加を断念しましたが、10人の女性区民が10の異なる視点で、宣武区の人々と心を通わせて来ました。幾つもの出会いが私達にとって、去年の秋の貴重な収穫です。

(団長・小沢浩子)

- 1日目 宣武区人民政府表敬訪問
- 2日目 宣武区婦女連合会との懇談  
女性弁護士との懇談
- 3日目 北京第一実験小学視察  
少年宮視察  
家庭訪問
- 4日目 天壇公園見学  
明の十三陵見学  
万里の長城見学
- 5日目 故宮博物館見学

## 万里の長城にて

日本の北海道から九州までの距離の2.5倍もあるという「万里の長城」見学が楽しみで、旅行前に何となく地球儀を前にしては、そこに佇む私を想像していました。現実に女坂を登りガイドブックの写真と同じ光景の城壁や展望を目にした時は大感激、急勾配の道も足取り軽やかで気分も上々です。手摺りにもたれ、秋風に吹かれた私は、思わず天空の彼方にこちらを見つめるもう一人の私を探してしまいました。(福田順子)



## 中国北京がくれた贈り物

中国人のお宅を訪問した時に八十才になるご老人が、日本の歌を歌ってくれました。(馬車馬車がゆくゆく大草原……) その歌を聞きながら、戦前に、彼にその歌を教えた日本人に思いをさせ、戦後五十年を経た今、私達日本人の元にその歌が戻ってきたことを何か不思議な思いで受け止めています。沢山の出会いと素晴らしい経験がありがとございます。(尾崎裕子)



## 山うるしの紅葉

空港から高速道路に入る植込に「へにすも」が5〜6本みえ赤紫の葉が繁り木の高さは1.5m位です。花壇にも通りの側面にも「ミニバラ」の赤い小さな花が沢山目立ちます。街路樹は「アカシヤ」「ポプラ」が多く、いずれも大きく伸びています。万里の長城へ行く道の両側は広大な平地で乾燥した畑に桃・柿・りんご等の果樹園が続きます。通りと畑の境に「山うるし」のベルトが下から緑・朱色・真紅と鮮やかな紅葉で遠々と続く道を走ります。(笹川セツ子)



第4回世界女性会議記念切手

# 第2回 北區女性海外派遣事業 北京市宣武区 1995. 10/16~10/20

## 中国で学んだこと

北京第一実験小学の授業の視察をした。生徒の姿勢がよいのに非常に驚いた。校長先生のお話によると、入学の時から座る時は置き時計のように、立っている時は柱時計のように、歩く時は風がそよぐようにと徹底的に教育することである。また気付いた第二点は生徒と教師の間には尊敬と信頼という契約がなされていた。日本ではあまり見られない光景であった。(榎並博子)



## 北京の朝

北京の朝の風景は道路に通勤のため、自転車に乗った人達が列をなしている。自転車に子供を乗せた男の人や女の人も多い。道端で油で揚げた食べ物を売っている人もいる。

歩道に簡単なテーブルと椅子を並べた食堂もある。小学生と一緒に家族も食事をしている。湯気のあがった小包子やラーメンを食べべている。おいしい店なのか人が行列している店もある。北京の朝は人が溢れ活気がある。(安部佳子)

## 時がゆったりと流れる北京

北京に着き、ホテルまでのバスからは、道の両側の行き交う自転車にまず目が止まった。車は、それらの自転車をよけながらノロノロとしたスピード。交通の渋滞は日常のありふれた光景になっている。人々は別段急ぎもせず、現在の自分達の生活があるがまま享受しているように見える。

世界女性会議を無事終え、落ち着きをとりのどした中国で、私がやさしい気持ちになれたのは、東京の喧噪を離れ、何事もゆったりとした時の流れに身を置いたせいかもしれない。(堀井泰江)

## 第2回派遣団

- |    |        |        |
|----|--------|--------|
| 団長 | 小沢 浩子  | 笹川 セツ子 |
|    | 安部 佳子  | 堀井 節子  |
|    | 榎並 博子  | 福田 順子  |
|    | 富田 富美子 | 山口 泰江  |
|    | 堀井 洋子  | 小沼 裕子  |
|    | 尾崎 久実子 | 竹之内    |

## 万里の会

帰国後の報告書提出の際、3回の会合を行ないその都度、各自が自発的に文献を持ちよったり、資料の作成や中国語の勉強などと研鑽を重ねるにいたり、北京での感動冷めやらぬ、第2回北區女性海外派遣団「万里の会」発足となりました。自分の目で現状を見ることができ、語り合うことのできた北京市宣武区との交流。もつという知りたいたいと思う程その気持ちは強く、又新たな意識も生まれ団員の結束は一つになり、参加から行動へと今年はずますます熱くなりそうです。(小沼 洋子)

## 後記

今回、この二ページの作成をすべて自分たちの手で行いました。これが、万里の会の初仕事です。北京の旅について、一人一人の個性あふれる思いが詰まっています。そして、それらの構成とレイアウトを小沼さんと山口さんと共に担当しました。これを読んでいただいても北京に親しみを持っていたら光栄です。(竹之内久実子)

## 私の北京旅行

山口富美子



北京空港から  
バスで北京市内へ  
高速料金所  
の建物も中国  
らしい。



高速をも  
しばらく待たせ  
忽然とバスを見せた  
自らの酒を  
市内へ  
バス停で待たされた  
大きな荷物の付いた  
自転車



車が増えてきたのは  
18  
言っても二入国では  
まだまだ自転車  
が大切な生活必  
需品です。  
通勤用の自転車は  
どこもインポート  
下取りやメンテナンス  
バイクも  
見かけた

いま ひと  
現在を拓く

'96北区女性週間 3月22日～24日

A 絵画、造形と工芸展 II

—北区の女性アーティストと工芸作家たち—  
3月22日～24日：北とびあ展示ホール  
プロとして第一線で活躍している北区の女性  
芸術家とその作品を紹介します。



B 映画とお話

3月23日午後（申込み制）  
：北とびあつつじホール  
映画「サンダカン八番娼館」  
お話「アジア女性交流史と  
これから」

作家 山崎朋子さん

C 講演会

3月22日午後（申込み制）  
：北区女性センター5階  
「女性(わたし)たちは、今、  
地域の嫁？」

長岡女子短期大学教授  
金井淑子さん



第3期北区アゼリアプラン  
推進区民会議委員

男女が平等で、共に心豊かにすごせる北区  
をめざして策定された北区女性行動計画「ア  
ゼリアプラン」。このプランを効果的に推進さ  
せるための北区アゼリアプラン推進区民会議  
は、平成3年に誕生して以来、第3期めに入  
りました。

新委員の活躍にご期待ください。

- 井上 孝代 東京外国語大学助教授(会長)
- 大谷 恭子 弁護士・十条仲原在住(副会長)
- 山田 昌弘 東京学芸大学助教授・上十条在住
- 厚美 薫 女性団体役員・滝野川在住
- 小野木良子 女性団体役員・滝野川在住
- 根本 真代 女性団体役員・神谷在住
- 堀井 節子 女性団体役員・滝野川在住
- 真庭 成子 女性団体役員・桐ヶ丘在住
- 宮坂 一朗 青年会議所北区委員長・志茂在住
- 大月 秀昭 東京都王子労政事務所長
- 加藤 幹夫 北区総務部長

新会長

井上 孝代さんからひとこと

北区のキャンパスで  
はなく、府中市にある  
「東京外大留学生日本  
語教育センター」で、  
留学生のカウンセリン  
グの仕事を行っている  
心理学者です。男女平  
等をめざして、展望を  
持ち、楽しく元気に活  
動していきましょう。



近  
刊  
日

女性政策課の出版物

● 再見もう一度会う日のために

— 北区女性海外派遣報告書 —

● 中国の女性団体組織である「婦女連合  
会」と司法制度についてのレポートを  
中心とした、北京市宣武区への派遣団  
員の報告集

● 女性大学学習記録

● 第4期女性大学における様々な講師陣  
による講義の概要録及び課題レポー  
トの1年間の集大成

● 男女共同参画社会をめざす行動計画

— 北区アゼリアプラン —  
平成3年に策定されたアゼリアプラン  
の改定版。性差別や不平等のない社会  
を築くために、平成14年までの目標や  
実施すべき事業を掲げています。

● 北区女性白書

区民の男女平等に関する意識調査をベ  
ースに、男女の平等感・不平等感を探  
り、その実態と課題に迫ります。

● 田端文士村と女性たち

— 北区女性史第一巻 —  
北区に生きた女性の歴史を女性の手で  
掘り起こし、女性の目で見つめなおし  
ました。調査から執筆まで、全てが女  
性区民によるものです。

申込み・問い合わせ

北区総務部女性政策課計画係

☎3908-1111

内線22221・22222

編集後記

一番の新参者ですが、編集会議  
で一番ハシヤイていたのも、もし  
かしら私？ アゼリアさんを  
描かせていただき、インタビュ  
ーや座談会からの記事起こしも体験  
できて、満足、のひと言です。

(田島)

人が求める幸せや豊かさが、人  
それぞれであることがよく言われ  
ます。あなたの廻りの方たちは、  
多様であることを認めていること  
でしょうか。自分が望んでいること  
を言葉に出してみよう。

(小田原)

女性のネットワーク2年目。手  
を伸ばして隣の輪と繋がったら、  
自分達の輪がこれまでだった一つ  
で居た事に気付きました。編集を  
通して、今度はそのまた向こうの  
輪にも届く声を出してみました。  
回を重ねることに編集の難しさ  
を感じます。加えて、取材の怖さ  
と楽しさ。

そして、その過程で、出会えた  
人とのつながりに育てられている  
ことを、改めて認識しました。

(森下)

アゼリア 11号

発行/東京都北区総務部女性政策課

☎3908-1111(内)2221・2222

企画・編集/アゼリア編集委員会

区民編集委員

小田原淑子・醍醐麗子・

田島加代子・館江順子・

森下えつ子

制作協力/鯨吼社